

3 研究活動

1 基礎看護学講座

1 基礎看護学分野

(1) 研究の概要

看護技術の定着度を高めるために、学生の動作分析を行い、効果的な教育方法の開発を行っている。また、筋電図や脳波などを用いて安全で安楽な援助方法の研究を行い看護する者、看護される者双方の身体的負担を少なくするような看護技術の開発を進めている。

「看護の技」は従来経験的に体得するものであったが、やさしく、かつ、機能的で快適に患者に触れる熟練看護者の技の科学的な解明を試みている。現在は、看護者の指、手掌に加わる圧力分布測定用手袋を開発し、患者の肌に直接触れてケアを行う時の看護者の手の使い方の究明に取り組んでいる。

看護師の臨床における実践能力について、看護師にはどのような倫理的判断やケアリングに関する臨床能力が必要となるのか明らかにするための研究を行っている。

看護者が臨床現場で遭遇する倫理的問題とその対処行動に着目し、対処行動に影響を与える個人的要因と環境的要因を見だし、その関連性と今後の課題を模索している。

看護・介護サービスの効率性や適正化と質の評価に関して実証研究を行い、経済学的分析を通して看護・介護サービスの質向上への政策設計に関する研究を進めている。

患者満足度や介護者の負担感・満足度などのアウトカム評価やケアのプロセスの評価としてケアマネジメントに関する研究を進めている。

男女共同参画社会が志向され女性の社会参加が進み、同時に労働が多様化した。保育時間は長くなり、帰宅は遅いが出宅は決して遅くない父母の影響を受けて、夜遅く寝て朝早く起き睡眠不足で登園する園児が目立つようになった。保育園児の生活を護るためには子どもの生活実態に合わせた保育が求められており、保育現場と協力して保育のあり方を研究している。

近代看護の基礎を築いたナイチンゲールの人生、看護に対する思想、業績などから、看護者としての看護姿勢の追及を研究している。

(2) 現状の問題点及びその対応策

学科の歴史が浅く、構成員はいろいろな大学から集まってきており、分野としての共同研究の成果は徐々に得られ始めているところである。各構成員がそれぞれ、今までに培ってきた研究をさらに発展させるとともに、協力して基礎看護学に関する研究を積極的に推進する。

(3) 今後の展望

看護職の臨床実践能力が問題視されている昨今、医療サービスの消費者である国民の看護職に対する要求は、一人ひとりの尊厳と、安全・安楽を保障し信頼できる質のよい看護の提供である。質のよい看護技術を実践できる看護師の育成を課題として、基礎看護学分野として、基礎看護技術の効果的な教育方法の開発、看護・介護サービス、さまざまなライフステージにある看護の対象の理解、看護師の倫理的感受性など、広範囲にわたる研究に取り組む。

(4) 研究成果の発表

著書(和文)

- 大津廣子:訪問看護の現状と将来展望 - 「在宅医療」への動きの中で - 改訂社会保障論 第1版 未来:207-219 (2001年3月)
- 大津廣子:眼のアセスメント・こどものフィジカル・アセスメント 第1版, 金原出版, p59-71 (2001年3月)
- 中村喜美子:小児保健の現状と課題・子どもの生活と養護・子どもの保健 - 理論と実践 - 第3版, 小児医事出版社, p25-50, p103-118, p126-134 (2002年3月)
- 塚本友栄, 城ヶ端初子:授業とメディア・看護教育の方法, 医学書院, p160-167, (2002年3月)
- 城ヶ端初子:看護理論からみた生活の場の援助・日常生活のケア・診察時のケア・在宅ケアの実践, 久美株式会社, p78-84, p146-150, p249-251 (2002年3月)
- 大津廣子:一滴の水の癒し・癒しの時代 21 第1版, 西日本法規出版, p34-35 (2002年4月)
- 岡本恵里, 村本淳子:体位と移動・考える基礎看護技術 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, p255-288 (2002年2月)
- 城ヶ端初子:高齢者ケアの概念・基本から学ぶ高齢者ケア, 金芳堂 p3-23 (2002年4月)
- 樋口京子:日常生活のケア 食事 清潔 衣生活・基本から学ぶ高齢者ケア, 金芳堂, p144-153, p161-177 (2002年4月)
- 岡本恵里:日常生活と看護・文部科学省著作教科書 高等学校用 基礎看護, 実教出版, p37-117 (2003年3月)

総説(和文)

- 瀬戸崎康子: The Primacy of Caring について・岐阜大学医療技術短期大学部紀要, 7(1): 9-19 (2000年11月)
- 桑田弘美, 瀬戸崎康子: Siblings of Hospitalized Children: Assessment and Intervention における考察・岐阜大学医療技術短期大学部紀要, 7(2): 69-75 (2001年3月)
- 瀬戸崎康子: What It Is To Be a Person を求めて・岐阜大学医療技術短期大学部紀要, 7(2): 103-115 (2001年3月)
- 城ヶ端初子: 看護理論・ナースビーンズ 3(4): 9-31 (2001年4月)
- 大津廣子: 情報開示のベースである倫理教育を看護基礎教育の視点から考える・Nurse Education, 2: 11-15 (2002年2月)
- 近藤克則, 篠田道子, 樋口京子, 荒尾晴恵, 野間口千香穂: 英国にみるホスピス・緩和ケアのプログラム(上)・病院, 61(3): 232-237 (2002年3月)
- 近藤克則, 篠田道子, 樋口京子, 荒尾晴恵, 野間口千香穂: 英国にみるホスピス・緩和ケアのプログラム(下)・病院, 61(4): 316-319 (2002年4月)
- 岡本恵里: 癌看護・ターミナルケアにおける倫理的問題; 看護者・看護学生が抱える倫理的問題状況への悩みと対処行動・臨床看護, 28(5): 657-662 (2002年5月)
- 菊池昭江, 岡本恵里: 看護婦の職務における自律性と研究活動に対する意識および倫理的問題に対する悩みとの関連・日本看護研究学会雑誌, 25(2): 101-109 (2002年6月)

原著(和文)

- 樋口京子, 近藤克則, 杉本浩章, 牧野忠康, 宮田和明: 在宅療養高齢者の看取り場所の希望と「介護者の満足度」に関連する要因の検討・厚生指針 43(13): 8-15 (2000年11月)
- 城ヶ端初子, 樋口京子, 桑田弘美: 危機状態にある患者の看護アプローチに関する検討 - フィンクの危機モデルを通して - . 岐阜大学医療技術短期大学部紀要 7(1): 83-90 (2000年11月)
- 城ヶ端初子, 樋口京子, 桑田弘美: 基礎看護教育課程における「健康」の教育方法に関する一試論・岐阜大学医療技術短期大学部紀要, 7(1): 73-81 (2000年11月)
- 桑田弘美, 廣島忍, 水野晋二, 星博昭, 林知也, 香川由美子, 瀬戸崎康子, 西村正子, 城ヶ端初子, 恵良聖一, 桑田一夫: Functional MRI による吃音の研究・岐阜大学医療技術短期大学部紀要, 7(1): 93-104 (2000年11月)
- 城ヶ端初子, 樋口京子, 豊嶋三枝子, 藤原聡子, 須佐公子, 細野容子, 小川景子: 効果的な患者 - 看護者関係の構築に関する検討・岐阜大学医療技術短期大学部紀要, 7(2): 73-81 (2001年3月)
- 大津廣子: 在宅介護サービス実施時に迷ったヘルパーの行動分析・国際地域経済研究, 2: 37-49 (2001年3月)
- 中村喜美子, 牧野綾乃, 家城絹代, 鈴木万壽子: 乳房観察記録からみた乳房トラブルの産褥入院中と退院後の関連・母性衛生, 42(2): 353-359 (2001年6月)
- 下野恵子, 大津廣子: 病院における看護サービスの価格づけの試み・季刊社会保障研究, 37: 259-273 (2001年12月)
- 三吉友美子, 大津廣子, 中井加代子, 石垣夫美代: 看護技術に関する認識の変化と技術習得状況・日本看護医療学会誌, 3: 17-26 (2001年12月)
- 大津廣子: 高齢者の健康と健康食品使用に関する分析・国際地域経済研究, 3: 8-17 (2002年3月)

- 三好さち子, 大津廣子, 望月章子, 浅井優子, 南 美智子, 今西芳子, 大平政子: 看護師に必要な臨床判断能力に関する研究. 広島県立保健福祉大学誌 人間と科学, 3: 27-35 (2003 年 3 月)
- 大津廣子: 介護サービスの質向上への取り組みに関する分析. 国際地域経済研究, 4: 27-43 (2003 年 3 月)

原著 (欧文・国内もしくは国外)

- Hatsuko Jogahana, Michinori Kabuto, Chisato Nagata, Hiroyuki Shimizu: Serum prolactin levels and risk factors of breast Cancer in postmenopausal Japanese women. 岐阜大学医学部紀要, 50(3-6):77-82(2002 年 11 月)

その他

- 城ヶ端初子: 急激な症状悪化を迎えた患者・家族に対するケア. 主任 & 中堅, 10: 66-72(2000 年 11 月)
- 大津廣子: 介護サービスの生産性向上とサービスの質について. 介護サービス事業の育成・振興方策に係わる調査研究報告書: 43-49(2001 年 3 月)
- 樋口京子: 介護保険導入前の「介護予防」と「介護負担感」をめぐる状況. 研究代表者: 野口定久 (日本福祉大学) 基礎自治体 (広域型・単独型) における介護保険制度の効率的運用と政策選択の評価基準に関する比較研究 平成 12 年度報告書. 厚生科学研究費補助金 (政策科学推進研究事業): 136-164(2001 年 3 月)
- 樋口京子: 単独自治体の多面的評価 (2) 介護保険政策による要介護高齢者および介護者へのインパクト. 研究代表者: 野口定久 (日本福祉大学) 基礎自治体 (広域型・単独型) における介護保険制度の効率的運用と政策選択の評価基準に関する比較研究 平成 13 年度報告書. 厚生科学研究費補助金 (政策科学推進研究事業): 100-133(2002 年 3 月)
- 岡本恵里: 考える看護 < 血圧測定 > 右腕に内シヤントのある患者さんの血圧をどちらの腕で測るか. 月刊ナーシング, 22(4): 32-33(2002 年 4 月)
- 岡本恵里: 考える看護 < 移乗 > チューブ挿入中の患者さんのベッドから車椅子への移乗. 月刊ナーシング, 22(4): 46-48(2002 年 4 月)
- 岡本恵里: 考える看護 < 環境整備 > 免疫力低下の患者さんの環境整備はどうするか. 月刊ナーシング, 22(4): 55-57(2002 年 4 月)
- 岡本恵里: 考える看護 < 口腔ケア > 自発性の乏しい患者さんの食後の口腔ケア. 月刊ナーシング, 22(6): 50-52(2002 年 5 月)
- 岡本恵里: 考える看護 < 環境整備 > 床に膝をつくことは看護動作として適切か. 月刊ナーシング, 22(6): 53-55(2002 年 5 月)
- 岡本恵里: 考える看護 < 病床の安全確保 > せん妄のある患者さんの病床環境を整えるには. 月刊ナーシング, 22(6): 56-58(2002 年 5 月)
- 岡本恵里: 学生のアセスメント能力を高め, 自己学習能力の育成を目指した教育方法 - テュータの役割 -. ナースエデュケーション, 3(3): 76-81(2002 年 8 月)
- 岡本恵里: ADVICE 迷っているあなたへ しっかりテーマを決めて手応えのある看護研究を. ナースデータ, 22(12): 64-65(2002 年 11 月)
- 岡本恵里ほか: 看護大事典, 医学書院, 515, 522, 1706(2002 年 11 月)
- 樋口京子: ケアマネジメントのプロセスに応じたアプローチの実際. 研究代表者: 宮田和明 (日本福祉大学) 在宅高齢者の終末期ケア用マネジメントプログラムの開発事業報告書. 社会福祉・医療事業団 (高齢者・障害者福祉基金) 助成事業: 57-67(2003 年 3 月)
- 岡本恵里ほか: 文部科学省 高等学校専門教科「看護」教育用コンテンツ 看護科資料 (DVD), 財団法人コンピューター教育開発センター (2003 年 3 月)
- 岡本恵里: 患者・高齢者を看護する看護者の手に加わる圧力測定手袋の開発と手の使い方の探求, 平成 13 年度 ~ 平成 14 年度 科学研究費補助金報告書 基盤研究 C2 課題番号 13672487(2003 年 3 月)

2 健康援助学分野

(1) 研究の概要

- 1) 各種哺乳動物の舌乳頭及び上皮剥離後の結合組織の表面構造を走査型電子顕微鏡により観察し、比較解剖学的側面から食物及び咀嚼方法との関係について研究している。
- 2) GFP 融合タンパク質の遺伝子発現により、細胞内での各種タンパク質の挙動を生きた細胞で解析している。さらに、細胞内でのタンパク質間相互作用（結合 - 解離）について明らかにするために、GFP 変異体を用いた蛍光共鳴エネルギー移動法（FRET）による測定を行っている。本法は多様なタンパク質間相互作用に適用可能であるため、3次元 FRET の開発や免疫染色への蛍光共鳴エネルギー移動法の応用についても研究している。
- 3) 真核微生物由来の各種生理活性物質について、医薬品開発を視野において、その作用機構やヒト培養細胞への影響を解析している。

(2) 現状の問題点及びその対策

- 1) 研究の進行速度は、研究材料としての動物の器官及び組織の確保次第であり、今後これまで以上に全国の動物園及び各自治体の協力を得たいと考えている。
- 2) タンパク質の細胞内での動的な挙動を明らかにするためには、蛍光消光回復法（FRAP）の利用が必須である。今後、レーザー光源の導入などによって本法による測定を可能にしたい。
- 3) 微生物由来の多様な研究試料の入手が必要であるため、今後さらに多くの試料を収集したいと考えている。

(3) 今後の展望

- 1) 野生哺乳動物の舌をより多く観察し、舌の構造と食性との関係を明らかにしたい。
- 2) 生きた細胞内での各種タンパク質の相互作用や拡散等の分子動態を、細胞内三次元空間に亘って測定、解析する。
- 3) 新規医薬品として利用可能な生理活性物質を見いだしたい。

(4) 研究成果の発表 (2000年10月～2003年3月)

総説 (和文)

- ・ 武藤吉徳, 加藤信子, 田中香お里, 渡辺邦友, 上野一恵: 細菌由来スフィンゴリン脂質の性状と細胞障害活性. 岐阜大医技短紀要 7: 27-46(2000)

原著 (和文)

- ・ 江村正一, 玉田 章, 早川大輔, 陳 華岳, 正村静子: ミケリス舌乳頭の観察. 岐阜大医技短紀要 7: 1-7(2000)
- ・ 江村正一, 玉田 章, 早川大輔, 陳 華岳, 正村静子: ハクビシン舌乳頭の観察. 岐阜大医技短紀要 7: 1-8(2001)
- ・ 江村正一, 玉田 章, 早川大輔, 陳 華岳, 正村静子: ヌートリア舌乳頭の観察. 解剖学雑誌 76: 233-238(2001)
- ・ 江村正一, 早川大輔, 陳 華岳, 正村静子: カリフォルニアアシカ舌乳頭の観察. 岐阜大医紀 49: 99-103(2001)
- ・ 江村正一, 玉田 章, 早川大輔, 陳 華岳, 正村静子: キタオットセイ *Callorhinus ursinus* 舌乳頭の観察. 哺乳類科学 41: 187-194(2001)
- ・ 江村正一, 早川大輔, 陳 華岳, 正村静子: ライオン *Panthera leo* 舌乳頭の観察. 哺乳類科学 43: 45-50(2003)
- ・ 加藤信子, 田中香お里, 渡辺邦友, 武藤吉徳, 上野一恵: Bacteroides 属のスフィンゴリン脂質について. 東海女子短期大学紀要 28: 47-54(2002)

- 武藤吉徳, 田辺裕美子, 河合清, 飯尾英夫: クリマコストールのミトコンドリア呼吸鎖阻害作用. 日本原生動物学会雑誌 36:25-26(2003)
- 加藤信子, 武藤吉徳, 田中香お里, 渡辺邦友, 上野一恵: 腸内細菌 *Bacteroides fragilis* 由来スフィンゴリン脂質の哺乳類細胞への影響. 東海女子短期大学紀要 29:55-61(2003)

原著 (欧文・国内)

- Yano R , Hayakawa D , Emura S , Chen H , Ozawa Y , Taguchi H , Shoumura S : Two cases of the double inferior venae cavae. *Okajimas Folia Anat Jpn* 77:133-136(2000)
- Emura S , Tamada A , Hayakawa D , Chen H , Shoumura S : Morphology of the dorsal lingual papillae in the bush dog (*Speothos venaticus*). *Okajimas Folia Anat Jpn* 77:137-142(2000)
- Emura S , Hayakawa D , Chen H , Shoumura S , Atoji Y , Agungpriyono S : SEM study on the dorsal lingual surface of the Lesser Dog-faced Fruit Bat , *Cynopterus brachyotis*. *Okajimas Folia Anat Jpn* 78:123-128(2001)
- Yano R , Hayakawa D , Emura S , Chen H , Ozawa Y , Taguchi H , Shoumura S. : A case of left inferior vena cava. *Kaibogaku Zasshi* 76:537-40(2001)
- Chen H , Hayakawa D , Emura S , Ozawa Y , Taguchi H , Yano R , Shoumura S : Effect of low calcium diet on the ultrastructure of the rat parathyroid gland. *Okajimas Folia Anat Jpn* 78:153-160(2001)
- Chen H , Hayakawa D , Emura S , Ozawa Y , Yano R , Shoumura S : A case of the horseshoe kidney. *Okajimas Folia Anat Jpn* 78(5):169-172(2001)
- Emura S , Hayakawa D , Chen H , Shoumura S : Morphology of the dorsal lingual papillae in the newborn panther and Asian black bear. *Okajimas Folia Anat Jpn* 78:173-178(2001)
- Emura S , Hayakawa D , Chen H , Shoumura S , Atoji Y , Wijayanto H : SEM study on the dorsal lingual surface of the large flying fox , *Pteropus vampyrus*. *Okajimas Folia Anat Jpn* 79:113-120(2002)

原著 (欧文・国外)

- Furuhashi N , Miyazaki S , Kamura M , Emura S , Yasuda K : Role of endothelium and vasoconstrictor prostanoids in norepinephrine-induced vasoconstriction in isolated rat common carotid arteries. *Clin And Exper Hypertension* 22:543-554(2000)
- Chen H , Hayakawa D , Emura S , Ozawa Y , Taguchi H , Yano R , Shoumura S : Occurrence of the parathyroid cyst in golden hamsters. *Ann Anat* 182:493-498(2000)
- Emura S , Tamada A , Hayakawa D , Chen H , Shoumura S : Morphology of the dorsal lingual papillae in the black rhinoceros (*Diceros Bicornis*). *Anat Histol Embryol* 29:371-374(2000)
- Chen H , Hayakawa D , Emura S , Ozawa Y , Taguchi H , Yano R , Shoumura S : Effects of ethanol on the ultrastructure of the hamster femur. *Histol Histopathol* 16:763-770(2001)
- Chen H , Hayakawa D , Emura S , Ozawa Y , Taguchi H , Yano R , Shoumura S : Morphological identification of the lipid-storing cells in golden hamster parathyroid glands after vitamin A treatment. *Histol Histopathol* 16:793-800(2001)
- Yano R , Hayakawa D , Emura S , Chen H , Ozawa Y , Taguchi H , Shoumura S : Effects of cigarette smoke exposure on the ultrastructure of the golden hamster parathyroid gland. *Histol Histopathol* 17:375-381(2002)
- Emura S , Hayakawa D , Chen H , Shoumura S : Morphology of the dorsal lingual papillae in the Japanese macaque and Savanna monkey. *Anat Histol Embryol* 31:313-316(2002)
- Chen H , Hayakawa D , Emura S , Ozawa Y , Okumura T , Shoumura S : Effect of low or high dietary calcium on the morphology of the rat femur : *Histol Histopathol* 17:1129-1135(2002)
- Ito K , Adachi S , Iwakami R , Yasuda H , Muto Y , Seki N , Okano Y: N-Terminally extended human ubiquitin-conjugating enzymes (E2s) mediate the ubiquitination of RING-finger proteins , ARA54 and RNF8. *Eur J Biochem.* 268:2725-2732(2001)
- Muto Y , Matsuoka T , Kida A , Okano Y , Kirino Y. : Blepharismins , produced by the protozoan , *Blepharisma japonicum* , form ion-permeable channels in planar lipid bilayer membranes. *FEBS Lett.* 508:423-426(2001).
- Kato M , Tanaka , K , Muto , Y , Watanabe , K , Ueno , K: Effects of *Bacteroides* Phosphosphingolipids on Murine Neutrophils. *Anaerobe* 8:23-28(2002)

2 母子看護学講座

1 母性看護学分野

(1) 研究の概要

母性看護学における妊娠・分娩・産褥期の今・昔の生活を中心に研究を重ねてきた。時代の変化とともに、分娩の形態や人々の分娩に対する考えも変遷してきた。それが、今後どのように変化するのか研究を重ねていく。また、妊娠・分娩・産褥期における健康の維持増進をはかるための効果的な保健指導に関する研究を継続して行う。

また、近年、10代の妊娠が増加しているため、それらに対する対策が全国的に開始している。厚生労働省により、「健やか親子21」でこれらの対策が始まり、各県が一体となって取り組んでいる。岐阜県においても同様であり、保健所や高校、大学が一体となって教育、研究活動を開始している。これらの活動を地域の人材と共に研究的視点にたって考え、広い範囲で女性の健康、健康の維持増進について考える。

看護学生が学ぶ、母性看護学実習において技術の向上は対象との人間関係を保つためにも必須であり、それらの技術の習得と向上に関する研究も継続していく。また、今後開始する助産学関係の講義、演習、実習において、妊娠・分娩・産褥に関する教育、実践の研究についてもさらに深化させていきたい。

(2) 現状の問題点及びその対応策

研究のためのフィールドの選択と承認が困難な場合が多く、研究によっては支障がある。現時点での対策としては、地域や場所、内容を大きく変えている。

(3) 今後の展望

予防医学が充実されつつある時代において、看護の果たす役割はさらに重要となっている。これらの研究は看護の基礎教育、母子保健の充実、発展につながることを期待でき、さらに母子の健康管理の充実にむけて研究を深化させていく。

(4) 研究成果の発表

原著

- 西村正子, 湯舟貞子, 中村裕美: 不妊治療後の妊婦の不安 自然妊娠による妊婦との比較, 岐阜大学医療技術短期大学紀要, 7(2)17-25(2000)
- 西村正子, 桑田弘美: Critical thinking から考える看護管理 21世紀における人材管理, 岐阜大学医療技術短期大学, 7(2), 91-15(2000)
- 西海ひとみ, 湯舟貞子, 西村正子: 男性助産婦資格拡大に関する意識調査 夫への保健指導を含めた検討, 母性衛生, 42(1)49-59(2000)
- 西村正子: 産育習俗史 広領域からみた妊娠・分娩・産褥期における日常生活行動 (第1報), 母性衛生, 43(2) 243 - 254(2001)
- 西村正子: 産育習俗史 広領域からみた食生活行動と乳汁分泌促進法, 母性衛生, 43(2)255-268(2001)
- 西村正子, 田中紀美子: 国立大学病院における看護職者の生涯学習 勤務における疲労感と自己教育力 岐阜大学医学部紀要, 50(2)41-45(2002)
- 湯舟貞子, 西村正子: 日本における看護の変遷 新見公立短期大学紀要 22 41-45(2002)
- 西村正子: 小児看護学を学生が理解した入院中の子どもへの関わり方と援助, 幼少児健康教育研究, 34-45(2002)

- 西村正子：育児の概観 育児は楽しく周囲からの支援を受けて、幼少児教育研究, 11(2)59-66(2003)
- 湯舟貞子, 西村正子：母子関係よりみる母性意識形成要因, 看護・保健科学研究 343-55(2003)
- 瀧井ヒロミ, 杉野文代, 湯舟貞子, 西村正子：学生の不安状態とリラクゼーション技法の有効性, 神戸常盤短期大学紀要 24 49-56(2003)
- 西村正子：アメリカ合衆国・ノースウエスト地域在住の日系人の調査, 母性衛生 44(2), 268-273(2003)
- 小野廣紀, 栢下淳, 青山武史, 青木良光, 松宮良子, 武藤吉徳, 杉浦浩子, 石原多佳子, 牧野茂徳, 山田光子, 後閑容子, 伊藤孝治, 若林和夫, 轟伊佐雄：岐阜大学学生の食生活調査（食品群の摂取状況） 自宅外通学学生および男子学生の食事は悪いか？, 岐阜市立女子短期大学研究紀要第 52 号：127-133(2002)
- 松宮良子：短大生の母性意識, 岐阜県母性衛生学会誌 26, 69-73(2001)
- Y. Matsumiya, N. Kato, H. Kato, K. Watanabe : Molecular epidemiological study of vertical transmission of vaginal *Lactobacillus* species from mothers to newborn infants in Japanese ,by arbitrarily primed polymerase chain reaction. J Infect Chemother 8 : 43-49(2002)

2 小児看護学分野

(1) 研究の概要

小児看護学分野における研究は、地域における障害児の日常生活及び学校生活に関する看護師の役割について着眼したものである。

臨地実習で受け持ち患児とその家族に関わっているが、家族（特に母親）の話から、自宅での療養に悩む母親が多いことを知った。中には退院後の生活のイメージが掴めず、受け入れに困難を示す母親も存在した。また、在宅で母親がケアをする先天的な障害を持つ子どもが肺炎を起こして入院した事例では、24 時間休みのないケアの実態を知り、在宅ケアの困難さを知った。そこでまず小児の在宅ケアの実態を知り、小児の在宅ケアに対する支援を強化するための研究を行っている。毎年国内外での学会発表の際に現地での状況も情報交換している。台湾でも母親に対する教育的支援が必要であることは理解しているが、なかなか取り組みが為されない現状を訴えていた。

以前から、てんかん児の学校生活において、医療と教育の連携が十分に為されず、その母親や教員が対処に困っているという状況があるため、学校生活における看護師の役割について研究している。医療と教育との連携が十分に取れないため、看護師は日常生活の援助者であると同時に医療と教育を繋ぐ役割があると考えている。また、てんかん児の中にはてんかんによって、行動問題を持つことがあるため、その際にどのように援助をしたら良いのか、援助方法についても研究している。

これらの成果は国内や海外で学会発表を行い、その後論文にしている。

<主なテーマ>

- 1) 「障害児の在宅ケアにおける家族への支援体制強化に関する研究」として、病院での協力により、障害児の在宅ケアを行う母親へのインタビューを行ってデータを収集している。
- 2) 「てんかん児の学校教育」として、てんかんを持つ学童期の子どもが学校の授業に参加できるように退院後からではなく、入院中から退院後の学校生活を念頭に置いた援助が必要であり、その方法について研究している。

(2) 現状の問題点及びその対応策

現在、教授と助手 2 人のみの分野である。そのため 2ヶ所の実習場にはそれぞれの教官が付きっ切りとなるため、実習時期になると研究を行う時間がほとんど取れない状況がある。学会発表も実習時期に重なると、1 人で 2ヶ所の指導になるため負担が大きい。もちろん対象者の都合もあるためにインタビューがなかなかスムーズに進まないという現状がある。夏季休暇中を利用し、対象を広げ

ていきたい。

ケースのインタビューでは訪問看護ステーションの看護師の協力を得ており、臨地での共同研究に発展させたいと考えている。

(3) 今後の展望

インタビューの際、初めての子どもが障害児で、子育てそのものが初めてな上に障害児をケアしなければならず、子育ての方法もよくわからなくて、一人で悩んでいるという事例があった。実習中にも母親が離乳の方法がわからず、2～3ヶ月の乳児いきなり塩分の濃い食品を与えて、体調を悪化させたり、生後2週間で肺炎を起こさせるなどの事例もよくみられるようになった。子育ての方法がわからない「育児不安」を持つ母親の増加を感じている。そうした育児不安について取り組む必要がある。

今後、障害児や地域で生活する病児の実態を調査することを考えているので、地域における障害児に係る専門職、特に養護学校の教員、福祉関係職員、保健師、保育士などとの連携が必要となる。

(4) 研究成果の発表(2000年10月～2003年3月)

著書(和文)

- ・ 桑田弘美：在宅看護・介護の実践 日常生活のケア 在宅ケアの実践 久美出版 187 - 201(2002年3月)

原著(和文)

- ・ 桑田弘美，廣嶋忍他：Functional MRIによる吃音の研究 岐阜大学医療技術短期大学部紀要 7(1) 93 - 104(2000)
- ・ 西村正子，桑田弘美他：臨地実習の分析 実習の学びと不安・指導者側からの期待 岐阜大学医療技術短期大学部紀要 7(1)57 - 66(2000)
- ・ 桑田弘美，浅野愛美他：看護職員の運動量に関する一考察 看護管理 10(12) 1001 - 1005(2000)
- ・ 桑田弘美他：行為障害を有するてんかん患児の学校生活指導 岐阜大学教育学部治療教育研究紀要第22号 17 - 29(2000)
- ・ 桑田弘美他：Siblings of Hospitalized Children: Assessment and Intervention における考察 岐阜大学医療技術短期大学部紀要 7(2)69 - 75(2001)
- ・ 桑田弘美他：プリオン病の感染対策における一考察 岐阜大学医療技術短期大学部 7(2) 59 - 67(2001)
- ・ 桑田弘美他：障害児の学校教育における看護者の介入に関する一考察 日本看護福祉学会誌 7(2) 29 - 36(2002)

原著(欧文)

- ・ Hiromi Kuwata, et al. : Functional MRI study of developmental stuttering Journal of Fluency Disorders 88-90(2000)
- ・ Hiromi Kuwata, Shizuko Murai, et al : The role of Nurses on pediatric home care The 2nd International Congress on Pediatric Nursing 256(2001)
- ・ Hiromi Kuwata, Shizuko Murai, et al : Nursing care of the hyperactive child with epilepsy 2nd ICN International Nurse Practitioner Advanced Practice Nursing Network Conference 72(2002)

3 成人・老年看護学講座

1 成人看護学分野（慢性）

(1) 研究の概要

本分野における看護の対象は、病気とその治療、障害などによる身体的、社会的、心理的制約を受けながら生きなければならない人々である。次に教育の対象は、専門的な問題解決能力に優れた看護学生を育成することである。それゆえに慢性期看護の理論的な基盤が不可欠である。さらに看護では、理論と実践を体系的に繋げてゆく必要がある。従って第一にはこのような状態の対象に、どのような看護が求められているのか、医療・福祉・生涯教育と視野を広げて研究の課題としている。具体的には、治療やリハビリテーションと Well-Being の関係、自己管理が生涯必要とされる生活習慣病、また高次脳機能障害、リンパ浮腫をもった人々とその家族、「End of Life」に関する看護そして患者会への支援を含め研究の対象としている。研究・調査などで得られた結果は、臨床に限らず、学生、臨床看護師へ還元するとともに、予防、症状の進行を防御するような活動を行っている。

<主な研究テーマ>

- 1) 慢性疾患患者の Quality of Life に関する研究
「Time Trade-Off 法を用いた慢性疾患患者の HRQOL(Health Related-QOL) の評価」
- 2) 高次脳機能障害者の医療・福祉・教育に関する研究
「脳外傷、脳梗塞等の治療・リハビリテーションと患者教育の関係および患者とその家族の QOL」
- 3) END of LIFE と看護に関する研究
「ターミナルケア・ホスピスケア・緩和ケアなど医療者側からの提案に留まらず人生の終末について看護学的生涯教育課題の明確化とシステム」
- 4) 看護学生の実践能力向上に関する研究

(2) 現状の問題点およびその対応策

今後、卒論生や修士生を担当するにあたり、研究を円滑に進めるうえで必要な環境がまだまだ十分に整っていないので、その充実を徐々に図っていく必要がある。

現時点において、次のような問題点がある。

- 1) 慢性期看護学に携わる教員が 3 名しかおらず、また、各自研究テーマを持って活動していることから共同研究困難である。
- 2) 分野の教官が共同で研究に取り組むためのスペースがない。
- 3) 看護学科開設したばかりで、分野としての教育体制を整えることが優先される状況である。

(3) 今後の展望

文化間の比較などの検討を重ねるとともに、国内・外の施設との共同研究や研究会の開催などにより、より実用性の高い研究を目指したい。

(4) 研究成果の発表 (2000 年 10 月 ~ 2003 年 3 月)

著書 (和文)

- ・ 細野容子:看護支援専門員、地域社会における介護専門支援員の役割と期待 - 臨床看護の立場から - 医歯薬出版株式会社 117-119 (2001 年 8 月)

原著（和文）

- 城ヶ端初子, 樋口京子, 豊島三枝子, 藤原聡子, 須佐公子, 細野容子, 小川景子: 効果的な患者 - 看護者 関係の構築に関する検討 - トラベルピーの看護理論を通して, 岐阜大学医療技術短期大学部紀要 7(2): 95 - 102(2001)
- 足立久子, 小山田隆明: 慢性疾患患者の Quality of Life(QOL) に関する研究 (3) - Time Trade-Off 法における検討 - , 岐阜大学教育学部研究報告 (人文科学), 49(1), 155-163(2000)
- 足立久子: 慢性疾患患者の QOL, 第 2 回日本ヒューマン・ケア心理学会, 講演集, 25-35(2000)
- 足立久子: Time Trade-Off 法による Health-Related Quality of Life 測定の問題, ヒューマン・ケア研究, 2, 13-17(2001)
- 足立久子: 慢性疾患患者の Health-Related QOL の研究 - Time Trade-Off 法による分析 - , ヒューマン・ケア研究, 2, 38-46(2001)
- 足立久子: 糖尿病患者シナリオを用いた治療法の選択に関する研究 - 看護師を対象として - , ヒューマン・ケア研究, 3, 64-68(2002)

その他

- 足立久子: 慢性疾患患者の QOL に関する臨床的研究 - Time Trade-Off 法による検討 - , 平成 13・14 年度文部科学省科学研究費補助金 [基盤研究 (C) , 一般] 研究成果報告書 , 1-52(2003)

2 成人看護学分野（急性）

(1) 研究の概要

成人看護学急性期分野では、現在および将来の看護学教育・看護実践に活かすことを目的とした研究課題を設定し、教材開発や実態調査、実験や準実験などを行っている。

看護学教育に関する研究では、手術を受ける患者の看護すなわち周手術期看護学に関して、学習方略の一つとしてのコンピュータ活用に着目し、バーチャルリアリティ・マルチメディア Computer Assisted Instruction(CAI) 教材を開発している。開発した CAI 教材は、CD や学内 LAN によって自己学習できるように学習環境を整えて、学生個々の自主的・主体的学習に資するとともに、その学習効果の検証を重ねている。これまでに「術後 24 時間の看護」、「手術室入室オリエンテーション」、「術後室の準備」、「麻酔導入までの看護」をテーマとした教材を開発してきた。現在もそれを継続して、学習効果の検証（客観的データに基づく評価研究）と教材の改良などを行っている。

また、患者参加型電子カルテシステムの構築（Construction of electronic medical record with patients' participation）に関する研究を、産官学連携の共同研究として行っている。今回は、胃がんの手術目的で入院した患者とその家族を対象とし、適宜、患者・家族自身が入力できるベッドサイド端末を想定した Tablet PC を用いて、患者・家族が求める情報システムを実装し、その内容の評価、およびヒューマンインターフェースの機能性、有用性について検討している。

看護実践に関する研究では、術後患者の急性混乱・錯乱予防と早期発見のための看護を明らかにするための基礎研究を行っている。現在は、術後せん妄に関する日本語版スケール（NEECHAM Confusion Scale）の信頼性と妥当性の検討、および術後せん妄の発症過程と発症因子の分析に関する研究に取り組もうと、研究討論会等を計画している。

(2) 現状の問題点およびその対応策

開発した CAI 教材は CD や学内 LAN によって自己学習できるように学習環境を整えている。現在は、セキュリティ面と医療・看護教材であるという倫理面を考慮し、学内 LAN に限定し、パスワードを入力することによって学習可能としているが、将来的には、いつでも、どこでも学習可能なようにインターネット配信を考えたい。また、映像や音声等を多々用いており、容量と学習効果の二側面を考え合わせた上での“最適”化、という課題にも取り組んでいる。

(3) 今後の展望

今や、教育および医療現場における IT 化の推進は避けて通れない。教育や看護の原点ともいえる Human Art とコンピュータの進歩によって飛躍的に拡大しつつある Scientific Technology をいかに相補的に活用していくかということは将来的な課題であると同時に、極めて現実的な課題である。CAI や電子カルテ等の研究と、その成果の応用は益々求められていくであろう。

(4) 研究成果の発表 (2000 年 10 月 ~ 2003 年 3 月)

著書 (和文)

- 竹内登美子: 実践能力を高める看護 CAI 教材の開発, 宇津木利征編集事務所, 1-73, (2002 年 4 月)
- 西本 裕, 佐藤正夫: 骨・軟部腫瘍の画像診断 - 21 世紀に向けて - RI-angiography を用いた治療効果判定, 医学のあゆみ, 199(2), 163-164, (2001 年 10 月)
- 竹内登美子: 看護学全集 / 基礎看護学 2 - 看護における研究, メジカルフレンド社, 54-104(2002 年 10 月)
- 竹内登美子: せん妄, 照林社, 26-39, (2002 年 11 月)

総説 (和文)

- 竹内登美子, 張平平: コンピュータで学ぶ術後 24 時間の看護, 臨床看護, 27(2), 147-153, (2001 年 2 月)
- 竹内登美子, 比嘉肖江: 多臓器機能障害症候群患者の看護計画 - ケアとその根拠 -, 臨床看護, 27(10), 1499-1503, (2001 年 10 月)
- 松田好美: 術後せん妄患者への看護, 臨床看護, 28(5), 604-608, (2002 年 5 月)
- 西本裕, 竹内登美子, 松田好美, 高橋由紀子他 4 名: 人とロボットの相互作用に関する基礎的研究 / 臨床研究 - 動物介在活動との関連 -, 臨床看護, 28(12), 1743-1749, (2002 年 11 月)
- 松田好美, 竹内登美子, 高橋由紀子: 周手術期看護に活かす CAI 教材の実際, 臨床看護, 28(12), 1837-1845, (2002 年 11 月)
- 綿貫成明, 酒井郁子, 竹内登美子: せん妄をどのようにアセスメントするか, エキスパートナース, 17(15), 32-41, (2002 年 11 月)

原著 (和文)

- 綿貫成明, 酒井郁子, 竹内登美子: 日本語版 NECHAM 混乱・錯乱状態のスケールの開発およびせん妄のアセスメント, 臨床看護研究の進歩, 医学書院, 12, 46-63, (2001 年 4 月)
- 森田敏子, 松永保子, 浅本憲, 松田好美, 内海滉: 看護学生の達成動機に関する研究 - 因子構造とその因子を規定する要因の検討 -, 福井医科大学研究雑誌, 1(3), 447-467, (2000 年 12 月)
- 竹内登美子, 張平平: 看護リスクマネジメント - 最近の事故分析 -, 臨床看護, 27(2), 223-228, (2001 年 2 月)
- 成瀬美香, 松田好美: 臍頭十二指腸切除術を受け術後合併症を生じた患者の看護 - オレムのセルフケア理論 を用いて -, 臨床看護, 28(5), 447-467, (2002 年 5 月)
- 田野宏美, 竹内登美子, 石井秀宗: 外科病棟入院生活に対する患者・家族の満足度と術前不安および手術に対する満足度との関係, 臨床看護, 28(12), 1824-1830, (2002 年 11 月)
- 高橋由美子: 成人看護学実習でのケースカンファレンスからの学び - 肺葉切除術を受ける患者の看護計画 -, 臨床看護, 28(5), 628-634, (2002 年 5 月)
- 野澤聡, 西本裕, 伊藤芳毅, 清水克時: 脛骨近位骨肉腫に対する Bone Transport を用いた再建術, 岐阜県医師会医学雑誌, 15, 113 - 119, (2002 年 7 月)

原著 (欧文)

- Satoshi Abe, Y.Nishimoto, K.Isu, T.Ishii, T.Goto: Preoperative cisplatin for initial treatment of limb osteosarcoma: its local effect and impact on prognosis, Cancer Chemotherapy and Pharmacology, Vol. 50: p320-324, (2002/7)

その他

- 竹内登美子, 比嘉肖江, 東原義訓: 術後患者用 CD-ROM 教材の開発と学習効果の検証, 第 20 回医療情報学連合大会集録, 94-95, (2000 年 11 月)
- 竹内登美子, 比嘉肖江: パーチャルリアリティを用いた術後看護用 CD-ROM の開発と学習効果の検証, 平成 11-12 年度科学研究補助金 (基盤研究 C-2) 研究成果報告書, 1-56, (2001 年 3 月)

- 若原和彦, 坂口康道, 宮本 敬, 野沢 聡, 小原 明, 西本 裕, 細江英夫, 清水克時: 特発性脊髄ヘルニアの1例, 東海脊椎外科, 15, 101-102, (2001年3月)
- 平川明弘, 西本 裕, 福田 雅, 清水克時, 田中健一郎, 武内章二, 下川邦泰: 左右大腿軟部腫瘍の1例, 東海骨軟部腫瘍, 12, 42-43, (2001年4月)
- 永野昭仁, 福田 雅, 西本 裕, 清水克時, 不破誠行, 葛西千秋, 下川邦泰: 左下腿皮下に生じた骨外骨肉腫の1例, 東海骨軟部腫瘍, 12, 57-59(2001年4月)
- 馬場岳士, 福田 雅, 西本 裕, 清水克時, 川口敦司: 軟骨帽の剥離により悪性化を思わせた骨軟骨腫の1例, 中部日本整形災害外科学会雑誌, 44(3), 709-710, (2001年5月)
- 佐藤栄子, 松田好美, 片岡純, 羽佐田知美, 永田恭子: 成人看護学実習における看護診断の取り組みの現状と課題, 第7回日本看護診断学会学術集会, 141, (2001年6月)
- 松田好美, 松永保子, 森田敏子, 内海滉: 妊婦のボディイメージ, 第68回日本応用心理学会, 125, (2001年9月)
- 松永保子, 森田敏子, 松田好美, 内海滉: 看護学生の成功回避動機に関する研究, 第68回日本応用心理学会, 120, (2001年9月)
- 吉田 実, 永野昭仁, 西本 裕, 福田 雅, 清水克時: 肝移転にて死亡した脂肪肉腫の1例, 中部日本整形災害外科学会雑誌, 44(5), 1099-1100, (2001年9月)
- 竹内登美子: 臨床看護実践能力の向上を目的とした看護学教育 - 教育へのコンピュータ活用 -, 第6回日本看護研究学会東海地方会 学術集会, 15-16, (2002年1月)
- 高橋由起子, 竹内登美子, 松田好美: 実習中急変した患者の受け持ち継続に関する研究 脳神経外科病棟で受け持ち患者の急変に遭遇した学生3名の分析 -, 第6回日本看護研究学会東海地方会 学術集会, 23, (2002年1月)
- 松田好美, 竹内登美子: 研究論文の読み方, 第13回 岐阜県看護研究発表会集録, 5-8, (2002年2月)
- 斎藤満, 福田 雅, 西本裕, 清水克時, 下川邦泰: 左足底に原発下血管肉腫の一例, 東海骨軟部腫瘍, 13, 7-8, (2002年4月)
- 中川裕章, 西本裕, 久島泰仁, 中村正生, 清水克時, 下川邦泰: 動脈瘤様骨嚢腫の再発と思われた大腿軟部腫瘍, 東海骨軟部腫瘍, 13, 21-22, (2002年4月)
- 中村正生, 西本裕, 久島泰仁, 清水克時, 下川邦泰: 第9回症例6(右下腿脂肪芽細胞腫)のfollow up, 東海骨軟部腫瘍, 14, 5-6, (2002年7月)
- 平川明弘, 宮本敬, 西本裕, 細江英夫, 清水克時, 下川邦泰, 山本悦夫, 篠原尚吾, 埴岡啓介: 診断に難渋した後頸部軟部腫瘍の1例, 東海骨軟部腫瘍, 14, 15-16, (2002年7月)
- 西本裕, 福田雅, 喜久生健太, 宮本敬, 清水克時, 臼井正明, 下川邦泰: 右脛骨遠位部修復性巨細胞腫の1例, 東海骨軟部腫瘍, 14, 29-30, (2002年7月)
- Alexander LIBIN, Elena LIBIN, Takeo OJIKI, Yutaka NISHIMOTO, Tomiko TAKEUCHI, Yosimi MATUDA, Yukiko TAKAHASHI: Person-Robot Interactions; NeCoRo Cat Communicating In Two Cultures (Phase 1. USA - Japan study), The 8th International Conference of Virtual Systems and Multimedia, Proceedings of VSMM2002, p899-905, 2002 Kiwisoft, Co.Ltd.(2002/9)
- 井上俊之, 大西量一郎, 宮本 敬, 西本 裕, 清水克時: 著明な石灰化を呈した下腿類腱腫の1例, 中部日本整形外科災害外科学会雑誌, 45(5), 839-840, (2002年9月)
- 松永保子, 森田敏子, 松田好美, 内海滉: 看護学生の成功回避動機と達成動機に関する研究, 第69回日本応用心理学会, 66, (2002年9月)
- 高橋由起子, 竹内登美子, 松田好美: 手術室入室オリエンテーション用CAIの開発と学習効果, 第7回日本看護研究学会東海地方会 学術集会, 21, (2003, 1月)

3 老年看護学分野

(1) 研究の概要

高齢社会の多様なニーズに応えることのできる看護職の育成を図るために、「老年看護学」という教科目が看護教育カリキュラムの中に位置づけられたのは1989年のことである。(1997年のカリキュラム改正までは「老人看護学」)。わが国における老年看護教育, 研究の歴史はまだ浅い。目前に迫る超高齢社会に向け, 多様な人生と生活と価値観をもつ高齢者に貢献する実践, 教育, 研究を強力に推進していかねばならないと考えている。

当分野においては、健康問題をもつ高齢者の看護に関する研究、要介護高齢者の看護に関する研究を中心に着手している。また、高齢社会の問題を考えるにあたり、「問題は高齢者ばかりにあるのではなく、高齢者を取り巻く人々にもある」という観点をもっている。そこで、「地域の人々に正しい高齢者観をもっていただく」ということで、地域の児童やその保護者を対象に「高齢者疑似体験をする会」を実施している。これらの活動が、地域でのコミュニティづくりにつながるよう、実施、評価を積み重ねていきたいと考えている。

(2) 現状の問題点およびその対応策

学年進行中であり、人もそろっていない中で教育、研究を進めている状況である。現在のところ、単発的な実態調査や、要因追求型の取り組みが多いが、研究を進めていくフィールドはできつつある。フィールドの看護実践者らと、有機的なつながりをもちつつ、継続性を持ち、長年にわたって取り組まれるような研究にしていきたい。

(3) 今後の展望

老年看護学分野における実践・研究は、高齢者自身に焦点をあてても、介護者や家族にあてても、まだ、着手されていない課題が多く残されている。研究の方向性を広げることも重要であるが、深めていくことも必要である。高齢者の問題は個別的であり、それ故に、主観的な見解に陥りやすい。実態調査の追試、検証によって、精度も高めていきたい。

また、今日の保健医療福祉サービスの質の充実に向けた流れは、老年看護学だけでなく、多くの学問領域における研究成果と無関係ではない。高齢者やその介護者の益につながるような組織的な研究も視野において進めたい。

(4) 研究成果の発表

著書（和文）

- ・ 松波美紀：事例を用いた高齢者の看護過程の展開 - セルフケアモデルを使って - 第1版 ヌーヴェルヒロカワ 171 - 191(2003年3月)

原著（和文）

- ・ 松波美紀：要介護状況となった患者家族に対する看護介入のあり方 東海北陸地区看護研究会集録 岐阜県看護協会発行 12 - 14(2000年11月)
- ・ 松波美紀，松本玄智江：家族介護者への看護介入のあり - 入院早期から介入を試みた事例報告 - 岐阜大学医療技術短期大学部紀要 第7巻2号 47 - 57(2001年3月)
- ・ 松波美紀：初期情報収集とその活用方法の検証 看護診断 第8巻 第1号 医学書院 42 - 50(2003年3月)

その他（学会発表）

- ・ 松波美紀：看護診断過程における看護婦の情報収集能力の現状とその問題点 - 情報収集とその活用方法の検証 - 第7回日本看護診断学会学術大会 63 - 66(2001年6月)
- ・ 松本玄智江，松波美紀：高齢者理解の促進をはかる学習方略の検討 日本老年看護学会 第6回学術集会 95(2001年11月)
- ・ 松本玄智江，香川由美子，松波美紀：地域住民の高齢者理解を促進するプログラム開発に向けての検討 - 小学生の母親へのWACシニアシミュレーターを用いた高齢者疑似体験を通して - 日本看護学教育学会 第12回学術集会 285(2002年8月)

1 地域看護学分野

(1) 研究の概要

当分野における基礎的、専門的研究はいずれも臨地現場に立脚し極めて基礎的な追求がなされ、その成果は必ずや臨地現場に還元されるものである。またその内容と手法は常に過去から現在の歴史に立脚して、将来を見据えた極めてユニークなテーマであり、小児、青年、成年、老年期のあらゆる年代の人々を対象にした、地域で行われている看護の分野である。高齢社会のわが国においては、人々が自らの健康を自ら守って、健康長寿を目指すように行動することが大切である。また、少子化が進む地域における健全な子育てへの支援や、青壮年の人々の健康増進も地域の重要な健康問題となってきた。地域看護学では、このようなあらゆる年代の人々に対して、地域において健康増進・健康づくり、病気の予防と早期発見・早期治療、社会復帰といった面から、看護職としての役割・機能、活動方法とその理論などの構築が必要となる。特に公衆衛生看護学の分野では、その活動拠点である県や市町村での地域に密着した業務を行っている保健師および職域での従業員の健康管理をしている保健師に有益な実践的な研究活動を目指す。

<主なテーマ>

1) 疫学調査方法の基礎的研究

質問紙調査におけるインフォームド・コンセントは調査研究における基礎的で古くから議論の対象になっている。その理想に近いポイントを探る。

2) 訪問看護ステーションにおけるリスクマネジメントのあり方

訪問看護ステーションの看護職は、交通、患者や家族との人間関係、患者宅における多様な環境など多くの問題を抱えながら一人で訪問し看護を行う。訪問時の作業中に蒙る危険の実態を把握し、その対策マニュアルを作成することが急務であり、その実態調査を行っているところである。

3) 地域高齢者の閉じこもり予防に関する研究

高齢者はQOLの低下に伴い閉じこもり傾向がみられる。それを防止する為の企画が地域で行われているがその内容の検証と、有用性の検討を行っている。

4) 職域における健康管理に関する研究

化学物質による健康障害予防対策、化学物質以外の職業性疾病の予防対策、作業関連疾患等の予防対策の課題に取り組んでいる。

5) 食生活と健康

食生活は健康度をかなりの割合で支配している。青年期の食生活を当大学での調査で明らかにする試みが行われている。また、コーヒー摂取習慣が血圧へ負の影響があることを日本で初めて発表した(Eur J Epidemiol 1998年)。コレステロール含量が多いとされる鶏卵黄が血清コレステロール値に殆ど影響が無いことを示唆した。

(2) 現状の問題点及びその対応策

当分野における全教官は赴任後1～3年しか経過していない。更に当講座スタッフは専門性が夫々異なっており、共通なテーマでの研究はあまりなされていないのが実情である。今まで培ってきた技量をお互い研鑽しながら新しいプロジェクトを構築していく必要がある。

(3) 今後の課題

地域・職域で保健活動を行っている保健師等と親密な連携を行い問題点の解析を含め、地域に貢献していくことが挙げられよう。

(4) 研究成果の発表(2000年10月～2003年3月)

著書(和文)

- ・ 後閑容子:日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア 中央法規出版(2000年11月)
- ・ 後閑容子:痴呆様症状のある人の在宅ケア 中央法規出版(2001年2月)
- ・ 後閑容子:医療処置を必要とする人の在宅ケア 中央法規出版(2001年5月)
- ・ 牧野茂徳:VDT作業による障害の防止 労働安全衛生コンサルタント必携 日本労働安全衛生コンサルト会 58～63(2001年11月)
- ・ 牧野茂徳:腰痛の予防 労働安全衛生コンサルタント必携 日本労働安全衛生コンサルト会 64～74(2001年11月)

著書(欧文・国内もしくは国外)

- ・ Yoshizawa N, Wakabayashi K, Takeuchi A, Yamakami K, Tadakuma T and Boyle M.D.P: Streptococci and streptococcal diseases entering the new millennium. (Dianna R M and Johon R T eds) 14st lancefield International symposium on Streptococci and streptococcal diseases. (New Zealand) 2000

原著(和文)

- ・ 大澤真奈美, 春山早苗, 細谷克子, 後閑容子, 浦野喜美子, 藤間邦子, 井上弘子, 島田秀子:在宅難病患者の抱えるニーズ. 群馬県立医療短期大学紀要 8:75-85(2001)
- ・ 後閑容子, 倉林しのぶ:質問紙調査におけるインフォームド・コンセントの現状. 群馬県立医療短期大学紀要 8:87-95(2001)
- ・ 倉林しのぶ, 後閑容子, 春山早苗, 大澤真奈美, 青木知子, 藤岡由美:過疎地域の高齢者の社会参加に影響を及ぼす要因に関する研究. 群馬県立医療短期大学紀要 9:109-116(2002)
- ・ 倉林しのぶ, 後閑容子:質問紙調査におけるインフォームド・コンセント実施に関する一考察:5年間の雑誌掲載論文の分析から. 保健の科学 44(3):229-234(2002)
- ・ 中村美代子, 鈴木美枝, 横山広美, 後閑容子:入学時 THI(東大式健康調査票)結果における退学者の特性-保健指導とのかかわり. 第39回全国大学保健管理研究集会報告書 38(2):499-502(2002)
- ・ 坂田三允, 長瀬英次, 富樫栄子, 後閑容子, 他:病院と地域の連携の促進-病院と地域の看護職者の実態調査から-. Quality Nursing 8(7):35-42(2002)
- ・ 佐々木健男, 野田一雄, 牧野茂徳, 伊藤一郎, 吉田勝美, 中石仁:事務所型事業場におけるVDT労働衛生管理とノート型パソコンへの対応について. 東京さんぼ 21 7:14-17(2000)
- ・ 牧野茂徳:職域における定期健康診断の有所見率について. 東京さんぼ 21, 8:16-19(2001)
- ・ 牧野茂徳, 岩崎千孝, 奈良一郎, 森正三, 加藤輝夫, 高橋克明, 大原昭男, 宇野万里, 東上幹夫, 林部弘, 高田 勲, 櫻井治彦:職域における定期健康診断の性・年齢別有所見率-平成11年東京都産業保健健康診断機関連絡協議会の調査から-. 産業医学ジャーナル 24(2):12-19(2001)
- ・ 伊藤一郎, 牧野茂徳, 野田一雄, 吉田勝美, 中石仁:ノート型パソコンの労働衛生管理について. 日本職業・災害医学会会誌 49:469-473(2001)
- ・ 牧野茂徳, 山本健也, 高田 勲, 櫻井治彦:VDT健康診断受診者の自覚症状と職業性ストレス. 日本職業・災害医学会会誌 50:36-40(2002)
- ・ 牧野茂徳, 岩崎千孝, 奈良一郎, 森正三, 加藤輝夫, 新村耕造, 東上幹夫, 林部弘, 高田 勲, 櫻井治彦:職域における定期健康診断の性・年齢別有所見率()2000年東京都産業保健健康診断機関連絡協議会の調査. 岐阜大学医学部紀要, 50:35-40(2002)
- ・ 牧野茂徳:平成13年有所見率調査結果. 東京さんぼ 21 15:12-15(2002)
- ・ 吉澤信行, 山上和夫, 若林和夫, 竹内昭彦, 近藤修市, 大嶋智:原発性アミロイドーシスの経過中に著明な高脂血症を呈した1例. Therapeutic Research 22:1719-1723(2001)
- ・ 田中博幸, 山上和夫, 本荘 哲, 梅田 孝, 若林和夫, 尾田高志, 吉澤信行:陸上自衛隊A駐屯地における血清補体価の調査報告. 日衛誌 56:588-594(2001)
- ・ 小野廣紀, 栢下淳, 青山武史, 青木良光, 松宮良子, 武藤吉徳, 杉浦浩子, 石原多佳子, 牧野茂徳, 山田光子, 後閑容子, 伊藤孝治, 若林和夫, 轟伊佐雄:岐阜大学学生の食生活調査(食品群の摂取状況)-自宅外通学学生および男子学生の食事は悪い

か? - 岐阜市立女子短期大学研究紀要 52: 127-133 (2003)

- 青山武史, 青木良光, 松宮良子, 若林和夫: 中規模総合大学学生の食生活調査と学内食堂における食生活改善の試み - 食生活へのサポートの必要性 - 岐阜県母性衛生学会誌 2003 (in press)
- 古田善伯, 石原多佳子, 熊谷佳世, 有川一: 地域高齢者における 1 週間の運動量および歩数の日間変動. 岐阜大学教育学部研究報告自然科学 25(1): 49 - 54 (2000)
- 佐分行子, 石原多佳子, 宮田延子: 施設における介護福祉実習の教育的課題についての一考察 - 受け持ちケースの介護過程の展開を通して. 介護福祉学 17(1): 109-116 (2000)
- 宮田延子, 梅原美智, 松下延子, 榎原千佐子, 佐分行子, 石原多佳子, 水野かがみ, 佐藤八千代, 大森正英: 在宅ケアニーズと看護のシステム化. 教育医学 46(3): 1034-1045 (2000)
- 桑田弘美, 浅野愛美, 今井七重, 熊谷佳代, 石原多佳子, 山崎捨夫, 今井一: 看護職員の運動量に関する一考察 - 大学病院整形外科病棟看護婦の三交代勤務における消費カロリー及び歩数の測定 - . 看護管理 10(12): 1001-1005 (2000)
- 折居忠夫, 梅村貞子, 野口典子, 水野かがみ, 仲村正巳, 藤園秀信, 石原多佳子: 地域在住高齢者の介護予防と生活支援に関する研究. 中部学院大学総合研究センター 2: 32-39 (2001)
- 石原多佳子, 水野かがみ: 高齢者の介護予防活動「元気でいこう会」参加者の特性の検討. 教育医学 47(1): 62-63(2001)
- 水野かがみ, 石原多佳子, 大森正英, 水野敏明: 地域在住高齢者の健康づくりを目的とした支援事業のあり方. 教育医学 47(1): 64-65(2001)
- 水野敏明, 水野かがみ, 宮田延子, 山崎旭男, 井上国広, 成田美代, 安藤晴彦, 石原多佳子, 大森正英: 地域高齢者を対象とした生きがい・運動習慣の確立に関する研究. 中日本自動車短期大学論叢 32: 33-49 (2002)
- 石原多佳子, 水野かがみ, 佐分行子: 地域高齢者における「閉じこもり」の検討. 教育医学 48(1): 134-135(2002)

原著 (欧文・国内もしくは国外)

- Yamakami K, Yoshizawa N, Wakabayashi K, Takeuchi A, Tadakuma T and Boyle M.D.P: The potential role of nephritis associated plasmin receptor in acute poststreptococcal glomerulonephritis. Methods 21: 185-197 (2000).
- Honjo S, Kono S, Coleman MP, Shinchi K, Sakurai Y, Todoroki I, Umeda T, Wakabayashi K, Imanishi K, Nishikawa H, Ogawa S, Katsurada M, Nakagawa K, Yoshizawa N: Coffee consumption and serum aminotransferases in middle-aged Japanese men. J Clin Epidemiol 54: 823-829 (2001).
- Yamakami K, Akao S, Wakabayashi K, Tadakuma T, Yoshizawa N: Mice lacking protein tyrosine kinase Fyn develop a T helper-type 1 response and resist Leishmania major infection. Environ Health Prev Med. 6: 132-135 (2001).

その他

- 安西将也, 会田 誠, 後閑容子, 坂本雅昭, 佐々木かほる, 瀬戸正子, 新田 収, 延原弘章, 村井龍治, 山路雄彦: 訪問指導が要介護高齢者に与える影響分析. 国民健康保険中央会 65-166(2001)
- 牧野茂徳: 作業管理の事例. 岐阜県医師会報 598: 18(2001年9月)
- 牧野茂徳: 有害業務管理の事例. 岐阜県医師会報 .598: 18(2001年9月)
- 牧野茂徳: 産業保健 Q & A . 産業保健ぎふ 13: 12(2001年11月)
- 牧野茂徳: 有所見率調査結果と健康管理. 論文集 東京産業保健推進センター 32-41(2002)
- 牧野茂徳: 「VDT 作業における労働衛生管理のためのガイドライン」の解説. 産業保健ぎふ 15: 8-10(2002)
- 牧野茂徳, 岩田弘敏, 藤田節也, 若林和夫, 後閑容子, 石原多佳子, 山田光子: 平成 14 年度産業保健調査研究報告書 岐阜県内の事業所における有害化学物質による障害予防対策の実態. 労働福祉事業団岐阜産業保健推進センター 1-29(2003)
- 折居忠夫, 石原多佳子, 野口典子, 水野かがみ: 白鳥町高齢者健康調査平成 13 年度調査結果報告書 (2002)
- 若林和夫: 血清コレステロールに対する卵黄の影響について 平成 14 年度財団法人旗影会研究助成に関する報告書 2003(in press)

2 精神看護学分野

(1) 研究の概要

精神看護学は、社会におけるメンタルヘルスの諸問題および個々の健康障害を持つ人々に対するアプローチの方法を探求する分野であると考えている。こころの働きと日常生活との関連に焦点をあてた精神看護の視点から、こころの健康、健康障害について考察するとともに、心身を病む人々への精

神看護の概念モデル、及び方法論・技術論の実証的な研究を目指している。また、地域におけるメンタルヘルスケアシステムの検討、ノーマライゼーションの理念の元に精神障害者の理解の促進、および精神障害者へのサポートに関する研究を検討していくことを研究分野としている。

<主なテーマ>

1) 精神障害者観に関する研究

平成 10 年に学生とともに、地域の住民、家族、医療従事者に対する精神障害者観についての研究を行った。精神障害者も地域で暮らすことを推進し、支援する施策が打ち出されている中で、精神障害者観は変化しつつあるのか研究を行った。結果は、少し許容的に変化しているが、かなり厳しい状況であることには変わりなかった。地域に様々な社会復帰施設ができつつあるが数的には不足し、地域における精神障害者への理解を求める活動が必要なことを再認識した。引き続き、一般住民の精神障害者観を調査していきたい。

2) うつ病の家族に対する心理教育に関する研究

平成 11 年よりうつ病の家族に対する心理教育の研究を進めている。うつ病の家族は、患者が動けなくなることや、自殺企図があっても患者の病状の理解がえられないケースや間違った対応をするケースが多い。そのような家族に対する家族教育はどんなものが必要か、またどんなタイミングに指導するのが良いのか、文献検討を行っている。

(2) 現状の問題点及びその対応策

学年進行中の予算不足に伴い、実験室の整備が十分にできていない。順次、整備を行い臨床看護に還元できる実証的な研究を進めたいと考える。

(3) 今後の課題

学年進行中のため、新たな研究の拡充・充実ができていない。今後、実験室を整備し、新規に迎える研究生とともに精神障害者に対する看護および臨床に還元できる研究を目指したい。

(4) 研究成果の発表(2000年10月～2003年3月)

著書(和文)

- ・ 山田光子(共著): 2004 度版 看護婦国家試験問題集 文弘堂 66-70, 106-111 (2003 年 3 月)

原著(和文)

- ・ 山田光子: 精神科看護婦と他領域の看護婦の看護診断指標の相違 日本看護学会看護総合 2000.9
- ・ 山田光子: 精神保健ボランティアの精神障害者に対する態度 山梨医科大学紀要 17 2000.12 p75-79
- ・ 山田光子: 小規模作業所に通所している精神障害者の生活障害 日本看護学会 地域看護 2001.10
- ・ 高橋由起子, 杉浦浩子, 竹内淑子: 看護学生の子どもに対するイメージと関連要因
- ・ 高橋由起子, 杉浦浩子, 竹内淑子: 小児看護学実習が学生の子どもに対するイメージ形成におよぼす影響
- ・ 杉浦浩子: 精神看護学実習における学生のコミュニケーションの変容過程
- ・ 杉浦浩子: 精神看護学実習にみる学生のコミュニケーションのタイプと共感性・対人態度との関連

原著(欧文・国内もしくは国外)

- ・ Mitsuko YAMADA: Investigation of nursing students' attitudes toward people with mental disorders: A comparative study of Thailand and Japan 山梨医科大学紀要 18: 69-75(2001)